

煙を出すゴルフボール

私の工場の地続きに、立川国際カントリークラブがある。昭和三十年頃のオーブンで、当時は大部分が町有林の借地だったが、一部私どもの土地も含まれていた。土地を提供しメンバーにもなった。ときどきゴルフ場に出かけていきクラブを振ったが、あまり上達しなかった。ある秋晴れの日にゴルフファーがボールを打つのをぼんやり眺めていたとき、紺碧の空にボールが飛んでいくのを見てパツと頭にひらめくものがあった。それは飛んでいくボールが煙跡を残したらどうだろうかということであつた。さらにその煙にいろいろの色をつけたらゴルフファーは喜ぶのではなからうかと考え、さっそく試作してみた。最初はプラスチックでゴルフボール状の玉皮をつくり、中に煙薬と発火薬を入れて打ってみた。発火は瞬間に割れてしまつたりした。一方、発火薬は取り扱い中に容易に発火するようでは、危険で使いものにならない。そこでこの発火薬として平素の取り扱いでは発火の心配がなく、しかも強烈な衝撃によつて初めて発火するものを選び、それを小粒に砕いた砂利に塗布した。そうしたものは発火の時に爆発圧が出てボールが破れるのを防ぐためである。また発煙剤も早く燃え過ぎず、またいつまでも火が残るものをさけた。それはゴルフ場の枯草などに引火する心配があるからであつた。ボールの皮もゴム製にして片側に四個の発煙孔をつけたのであつた。これが現在発売されている発煙ゴルフボールである。

製品は千ダースを一口ツトとして検査している。製品一口ツト中から四十個を抜き取り打つてみて異状の有無を検査し、さらに高さ二メートルから落下させて発火の試験をする。万一発火したものがあれば、その不良品が出たロットは不合格として出荷しない。この発煙ゴルフボールも会社の業績に貢献するようになったので、ゴルフ場の上空を仰いで感謝している。